

メッセージ◆岸 義紘先生

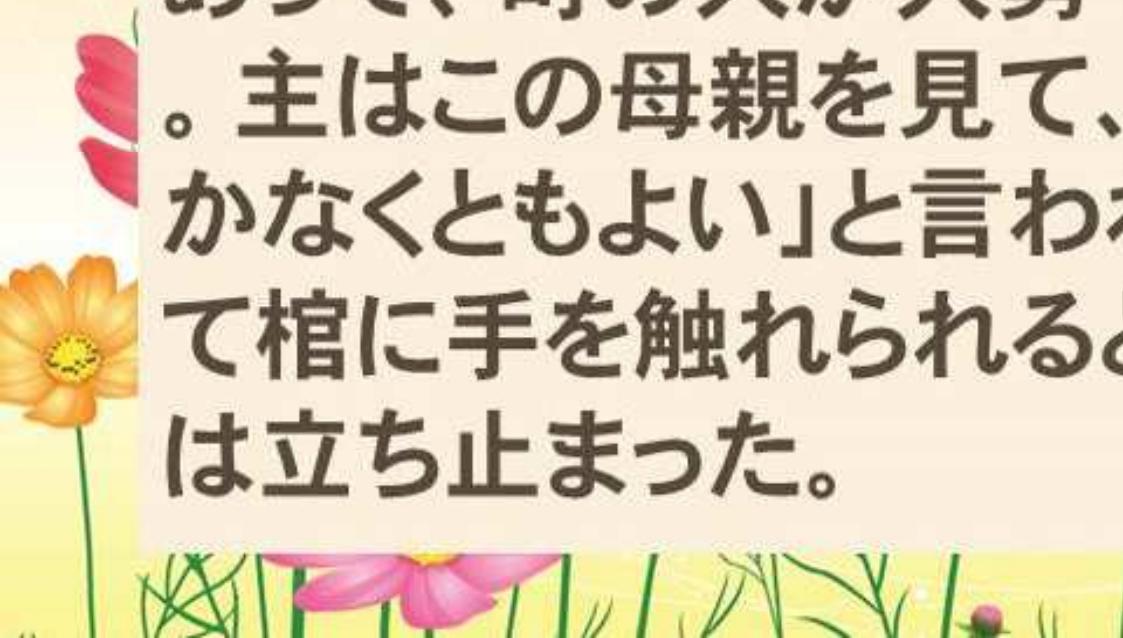
もう泣かなくて よいのです

ルカによる福音書 7章13節

「主はその母親を見て
かわいそうに思い、
『泣かなくてもよい。』と言われた。」

ルカ福音書7章11~17節

それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちや大勢の群衆も一緒であった。イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出されるところだった。その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言わされた。そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。



ルカ福音書7章11~17節

イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。すると、死人は起き上がつてものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。人々は皆恐れを抱き、神を賛美して、「大預言者が我々の間に現れた」と言い、また、「神はその民を心にかけてくださった」と言った。イエスについてのこの話は、ユダヤの全土と周りの地方一帯に広まった。

